



TITLE:

鼠径部膀胱ヘルニアの1例

AUTHOR(S):

辻畑, 正雄; 横川, 潔; 中野, 悦次

CITATION:

辻畑, 正雄 ...[et al]. 鼠径部膀胱ヘルニアの1例. 泌尿器科紀要 1991, 37(9): 1053-1055

ISSUE DATE:

1991-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117278>

RIGHT:

鼠径部膀胱ヘルニアの1例

大阪大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 園田孝夫教授)

辻畑 正雄*, 横川 潔, 中野 悦次

A CASE OF INGUINAL BLADDER HERNIA

Masao Tsujihata, Kiyoshi Yokokawa and Etsushi Nakano

From the Department of Urology, Osaka University Hospital

Pyelocystography on a 61-year-old man with a ureteral stone incidentally revealed the inguinal bladder hernia. He had no complaint of urinary disturbances. During the operation for the hernia, we could not find the bladder without transurethral saline instillation; only the intestine covered with peritoneum was in sight.

Utility of preoperative cystography on the cases of inguinal hernia is discussed.

(Acta Urol. Jpn. 37: 1053-1055, 1991)

Key words: Inguinal bladder hernia, Cystography

緒 言

今回われわれは左尿管結石の精査目的での排泄性腎盂造影にて偶然発見した、鼠径部膀胱ヘルニアの一例を若干の考察を加えて報告する。

症 例

患 者: 61歳, 男性

主 訴: 右鼠径部腫瘍

家族歴: 特記すべきことなし

既往歴: 1976年 胆嚢結石症, 1988年 左白内障

現病歴: 約10年前より, 立位時に出現する右鼠径部腫瘍を自覚していたが, 容易に還納するため放置していた1988年12月, 左尿管結石にて当科紹介され, 精査目的にて排泄性腎盂造影を施行された際, 立位像にて膀胱ヘルニアが疑われたため, 1989年8月, 精査治療目的にて, 当科入院となった。なお結石は入院前に自排している。

現症: 身長 160 cm, 体重 70 g 軽度肥満 胸部聴打診上正常。腹部はやや膨隆しているも, 肝脾腎触知せず。怒責時右鼠径部に表面平滑, 弾性軟, 無痛性の腫瘍触知するが容易に還納。外性器, 前立腺に異常はなく, 排尿障害および便秘はない。

入院時検査成績: 検血, 血液生化学に異常所見なし, 検尿では, 外観は黄色透明で潜血も陰性。沈査でも異常所見を認めず。胸部単純X線撮影にて異常を認

*現: 住友病院泌尿器科

めず。心電図所見正常。

レ線所見: 1989年5月施行の20分後排泄性腎盂造影立位像にて, 右鼠径部に造影剤の涙滴状貯留を認める (Fig. 1)。また, 200 cc 造影剤注入時の膀胱造影立位第一斜位像においても同様, 膀胱ヘルニアを認める。

さらに, 尿流動態を見るべく排尿時膀胱尿道造影を施行した。鼠径部膀胱も他と同様に収縮するのが確認され, 排尿は, 終始なめらかであり, 残尿なく終了した。術後8日目に施行した200cc注入時の膀胱造影立位像にて, 膀胱ヘルニアを思わす所見は認められない。

手術所見: 右鼠径部に約 10 cm の皮膚切開を加え, 鼠径部を開いて観察すると, 腹膜に包まれた腸脱出のみに認められたため, まずヘルニア嚢を処理した。続

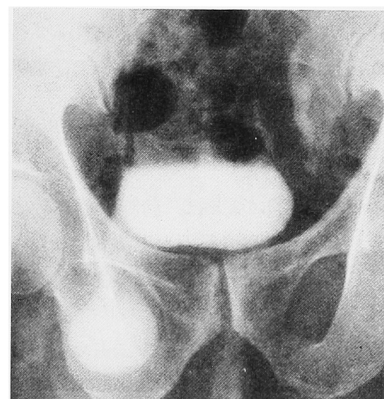


Fig. 1. Pyelocystography shows tear-drop like mass from the bladder; up-right position

Table 1. Cases of bladder herniation in the Japanese literature.

| No. | 報告者 | 年次 | 年齢 | 性別 | 診断 | 部位 | 分類 | 下部尿路通過障害 |
|-----|--------|------|----|----|-----|------|-----|----------|
| 1 | 池田 | 1921 | | 男 | | 陰嚢内 | 腹膜側 | |
| 2 | 鈴木, 中野 | 1922 | 1 | 男 | 術中 | 右鼠径部 | 腹膜外 | — |
| 3 | 芳賀 | 1923 | 56 | 男 | 術中 | 陰嚢内 | | |
| 4 | 安藤 | 1925 | 1 | 男 | 術中 | 左鼠径部 | 腹膜側 | — |
| 5 | 岩島 | 1929 | 18 | 男 | 術中 | 右鼠径部 | 腹膜外 | — |
| 6 | 竹内 | 1935 | 66 | 男 | 術中 | 左鼠径部 | 腹膜外 | — |
| 7 | 桑原 | 1940 | 2 | 男 | 術中 | 左陰嚢内 | | — |
| 8 | 朴 | 1940 | 19 | 女 | | 鼠径部 | | — |
| 9 | 宮内 | 1941 | 18 | 女 | 術中 | 右鼠径部 | 臃膜外 | — |
| 10 | 大庭, 大西 | 1942 | 51 | 女 | 術中 | 鼠径部 | 腹膜側 | — |
| 11 | 青木, 坂野 | 1951 | 18 | 女 | 剖検時 | 左会陰部 | | — |
| 12 | 田中 | 1957 | 56 | 男 | 術中 | 右陰嚢 | 腹膜側 | — |
| 13 | 海野・他 | 1957 | 49 | 女 | 術中 | 右鼠径部 | 腹膜側 | — |
| 14 | 土田・他 | 1961 | 62 | 男 | 術中 | 左鼠径部 | | |
| 15 | 梶田, 福島 | 1961 | 16 | 男 | 術中 | 右鼠径部 | 腹膜外 | — |
| 16 | 勝目・他 | 1966 | 61 | 男 | 術中 | 左鼠径部 | 腹膜外 | — |
| 17 | 渋谷, 渡辺 | 1972 | 8 | 女 | 術中 | 左鼠径部 | | — |
| 18 | 金重 | 1974 | 87 | 男 | 術中 | 鼠径部 | | — |
| 19 | 瀬川 | 1974 | 40 | 男 | 術前 | 右陰嚢部 | 腹膜側 | — |
| 20 | 佐々木・他 | 1977 | 72 | 男 | 術前 | 右陰嚢内 | 腹膜外 | 前立腺肥大症 |
| 21 | 西尾・他 | 1978 | 52 | 男 | 術前 | 右陰嚢内 | 腹膜側 | |
| 22 | 並木・他 | 1979 | 89 | 男 | 術前 | 右陰嚢内 | | 前立腺肥大症 |
| 23 | 渡辺, 吉田 | 1980 | 51 | 男 | 術前 | 右鼠径部 | 腹膜側 | 膀胱頸部硬化症 |
| 24 | 立花, 斉藤 | 1980 | 69 | 男 | 術前 | 右陰嚢内 | 腹膜側 | 前立腺肥大症 |
| 25 | 有馬, 南 | 1980 | 71 | 男 | 術前 | 右陰嚢内 | 腹膜外 | — |
| 26 | 松元・他 | 1982 | 66 | 男 | 術前 | 右鼠径部 | 腹膜側 | 尿道狭窄 |
| 27 | 真嶋・他 | 1983 | 55 | 男 | 術前 | 陰嚢内 | 腹膜側 | — |
| 28 | 真田・他 | 1985 | 74 | 男 | 術前 | 右鼠径部 | | |
| 29 | 長谷川・他 | 1986 | 77 | 男 | 術前 | 右陰嚢内 | | 前立腺肥大症 |
| 30 | 八幡・他 | 1987 | 58 | 男 | 術前 | 右鼠径部 | 腹膜側 | 尿道狭窄 |
| 31 | 佐井・他 | 1988 | 34 | 男 | 術前 | 左鼠径部 | | |
| 32 | 三宅・他 | 1988 | 79 | 男 | 術前 | 左鼠径部 | 腹膜内 | 膀胱頸部硬化症 |
| 33 | 自験例 | 1989 | 61 | 男 | 術前 | 右鼠径部 | 腹膜側 | — |

いて経尿道的に膀胱内へ生理食塩水を注入していくと、ようやく内鼠径輪下に膀胱壁を認めた。そして膀胱内を空虚にしたのち、Bassini 法に従って後壁の補強を施し、続いて鼠径管の修復を行った。術後経過は順調で、手術後9日目に退院した。

考 察

Watson¹⁾ の定義によれば、膀胱ヘルニアは、膀胱の一部が腹部あるいは、骨盤部の正常または異常の開口部を通して突出したもので、その滑脱経路により多くは、鼠径あるいは大腿ヘルニアの形をとる。Iason²⁾ は膀胱ヘルニアが鼠径ヘルニア中に占める割合は、1～3%であり50歳以上の男性の10%に及ぶとの報告がある。本邦では、1921年池田³⁾ の症例以来、1967年勝目⁴⁾ が16例、1979年並木⁵⁾ が6例を集計しており、

1980年以降われわれが検索し得た症例は10例⁶⁻¹⁵⁾ で、自験例は33例目になる (Table 1)。その発症年齢は、50歳以上に20例認め、約60%を占めている。男女比は4:1で圧倒的に男性が多いが若年発症例では1:1と差を認めていない。これについては、その発症原因によると考えられる。すなわち若年者では、先天的な腹壁の脆弱や膀胱壁の発生異常が考えられるのに対して中高年者では、後天的な腹壁の脆弱化に加え、とくに男性の場合、前立腺肥大などの下部尿路通過障害による膀胱壁の荒廃も本症の原因の一つと考えられているからである⁴⁾。症状としては、局所の腫瘍形成と排尿異常であり、局所腫瘍は、排尿前後でその大きさが変化することである。排尿異常としては、頻尿、排尿困難、残尿感、2段排尿、などがあるが、自験例を含め、多くは、潜在的な経過をたどり、局所腫瘍以外に自覚

症状を認めないことが多い。

膀胱ヘルニアの分類としては、その解剖学的病態が膀胱と腹膜の位置関係にて、1)腹膜外型 2)腹膜内型 3)腹膜側型の3型に分類される¹⁶⁾。その頻度としては、腹膜側型が最も多くなっている。本邦報告例で型の判明している22例のうち側型が13例と最も多く、内型はわずか1例しか報告されていない。腹膜内型と側型は、膀胱の脱出とともに腸脱出もみとめられるもので側型のうち腸脱出の程度の大きいものが内型と考えると、内型は側型の特殊例と考えられ大部分は側型と外型に分類されるものと考ええる。本疾患の報告例は、Table 1 に示したごとく数少ないものであるが、本症例においても、術中腸脱出のみが確認され、膀胱自体は、活水にてこれを充満させることで、ようやく術野に認められている。すなわち、一般外科領域において、鼠径腸ヘルニアとして診断された症例の中には、本疾患が数多く、潜在することが想像される。実際、Liebskind ら¹⁷⁾の報告では、術前後の詳細な検査により2年間に50例の本疾患を発見している。さらに諸家の報告によれば、炎症のためか、膀胱壁が周囲組織と癒着したり、壁の脆弱化を伴う場合もあり、鼠径部のみでは処理が困難となりうる。以上の理由からわれわれは、鼠径ヘルニアの症例に対してきょうるかぎり術前の膀胱造影を勧めたい。

文 献

- 1) Watson LF: Hernia, 3rd ed, 555-575 St Louis, C.V. Mosby Co. 1948
- 2) Iason AH: Repair of urinary bladder herniation. Am J SURG 63: 69-77, 1944
- 3) 池田 清: 結石ヲ伴エル膀胱陰嚢ヘルニアノ1例 皮膚泌尿器科雑誌 21: 570, 1921
- 4) 勝目三千人, 藤枝順一郎, 佐藤昭策, ほか: 鼠径部膀胱ヘルニアの1例. 臨泌 21: 813-816, 1967
- 5) 並木幹夫, 下江庄司, 岩佐賢二: 鼠径部膀胱ヘルニアの1例. 臨泌 33: 493-496, 1967
- 6) 渡辺秀次, 吉田宏次郎: 鼠径部膀胱ヘルニアの1例. 日泌尿会誌 71: 424-425, 1980
- 7) 立花裕一, 斎藤 隆: 膀胱癌を合併した陰嚢内膀胱ヘルニアの1例. 臨泌 34: 989-992, 1980
- 8) 有馬 滋, 南 茂正: 陰嚢内膀胱ヘルニアの1例 日泌会誌 71: 979, 1980
- 9) 松元鉄二, 大北健逸, 西 光雄, ほか: 陰嚢内膀胱ヘルニアの1例. 日泌尿会誌 73: 678-679, 1982
- 10) 真島 光: 膀胱ヘルニアの1例. 日泌会誌 74: 1282-1283, 1983
- 11) 真田寿彦, 瀬川 譲, 秋間道夫: 膀胱癌を合併した膀胱ヘルニアの1例. 臨泌 39: 340-341, 1985
- 12) 長谷川史, 西本和彦, 北川慶幸, ほか: 膀胱ヘルニアの1例. 日泌会誌 77: 1057, 1986
- 13) 八幡孝平, 金城 治, 金城守人, ほか: 膀胱ヘルニアの1症例. 沖縄医学雑誌 24: 165-166, 1987
- 14) 三宅茂樹, 武田繁雄, 武田祐輔, ほか: 膀胱ヘルニアの1例. 西日泌尿 50: 1969-1973, 1988
- 15) 佐井雄一, 吉川年子, 栗井 修, ほか: 膀胱ヘルニアの1例. 泌尿紀要 35: 349-352, 1989
- 16) Soloway HM, Portney F and Kaplan A: Hernia of the bladder. J Urol 84: 539-543, 1960
- 17) Liebeskind AL, Elkin M and Goldmen SH: Herniation of the bladder. Radiology 106: 257-262, 1973

(Received on October 4, 1990)
(Accepted on April 3, 1991)